







インドネシア・ジャワ島チラタ湖の網生簀養殖(コイ・ティラピア)

# チラタ湖の網生簀養殖魚の大量斃死問題

水産学としての解決:

容易(過密養殖)

開発学としては難問:

土地なし農民による養殖・漁業

土地なし農民が生まれる社会背景



**カンボジアで  
農民による漁業について考える**

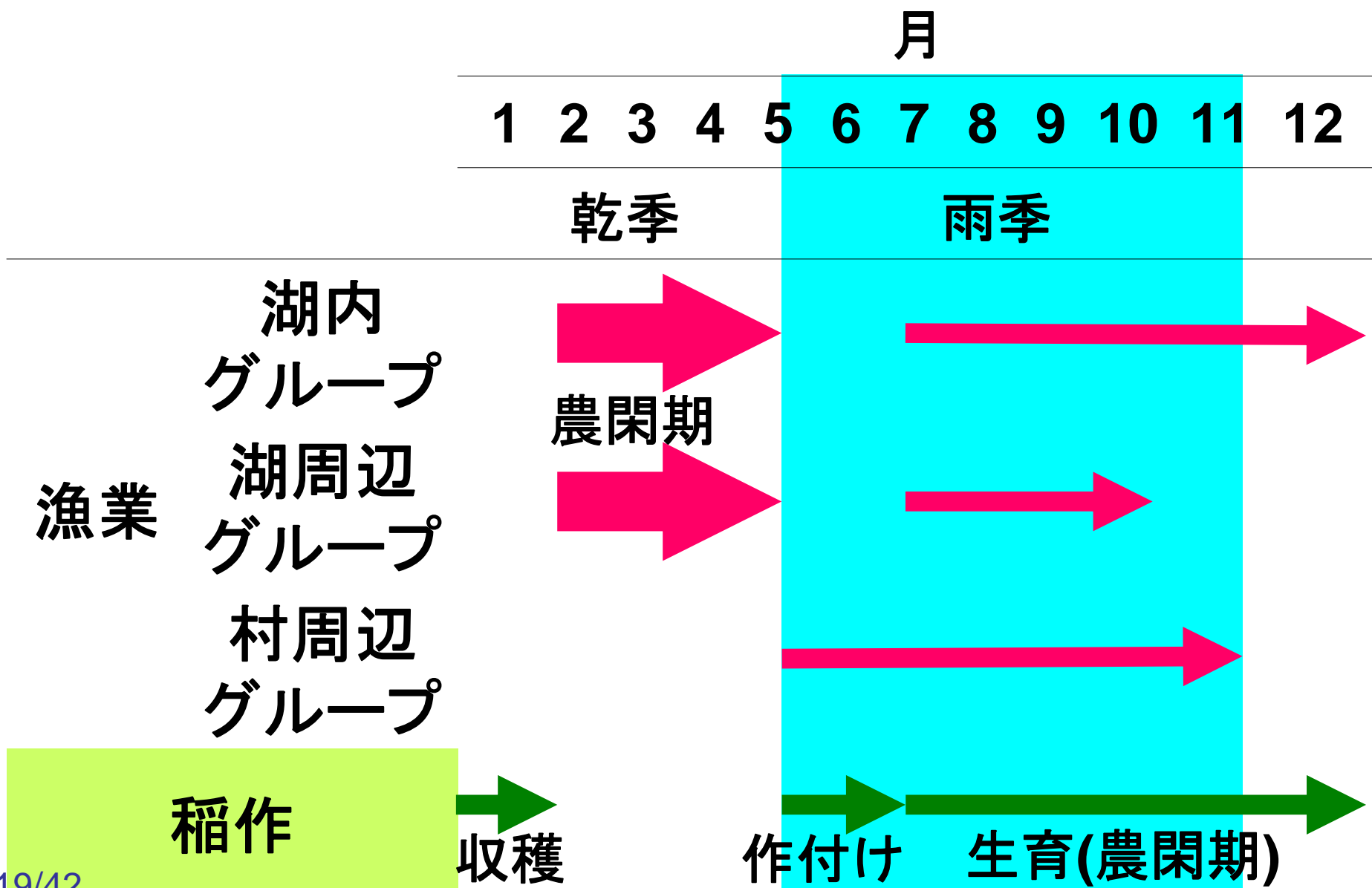
# 一世帯当たり平均年間漁獲量と 漁獲物を販売する割合

村名	漁場 グループ	漁獲量 (kg/yr)	販売する 漁獲物の割合(%)
スヴァイイーア	湖内	701	90.8
	湖周辺	270	77.4
	村周辺	334	31.6
スレイロンガッ	湖内	544	89.1
	湖周辺	167	67.7
	村周辺	260	53.9

# 一世帯当たり平均年間稲作収量 米消費量と米不足量

村名	漁場グループ	稲作収量 (kg/年)	米消費量 (kg/年)	不足米量 (kg/年)
スヴァイイーア	湖内	900	1620	516
	湖周辺	721	1216	495
	村周辺	1069	1234	569
スレイロンガッ	湖内	991	1134	463
	湖周辺	577	1108	549
	村周辺	677	958	391

# 季節カレンダー



漁業問題は漁業だけを考えても解決できない

ところで

農民による漁業の何が問題なのか

伝統的漁村文化における

資源保護と資源の共有





My son

Kurokura

A festival in a fishing village

9/28

9 28 10 18

9/28



Fisherman's society in Japan is Local , blood ,  
occupation and religious group



Kurokura

# 技術と文化の相補性

技術によって文化が出来る  
文化にあった技術が残る

11/28

それならば

技術によって文化を創成できないか  
(開発の可能性)

バタン湾プロジェクト





# バタン湾と浜名湖は瓜二つ



バタン湾



浜名湖

浜名湖は日本で最初にクルマエビの種苗放流に成功した。  
浜名湖では放流によって漁民の意識が変わった。



# Batan Bay



Obviously over fishing

# Hamana Lake



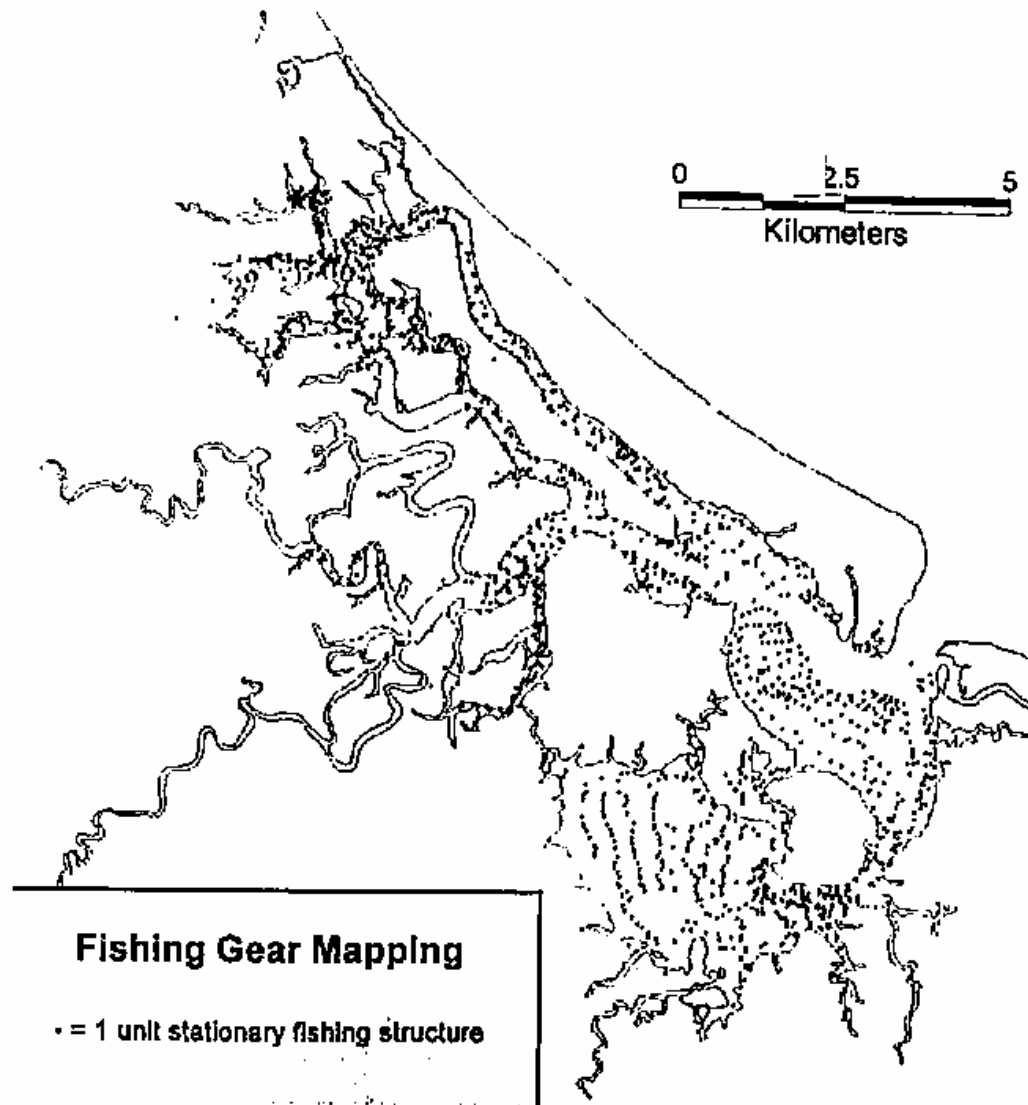


Fig. 2. Map of stationary fishing gears in Batan Bay and Tinagong Dagat (Babaran et al., 2001).

バタン湾プロジェクトの狙い

ウシエビの種苗法流によって  
資源管理の共通利益を認識させる

自律的資源管理システムの構築

地域文化の創成



すでにベースライン調査は始まっている。



実際にプロジェクトを動かしてみるのが大切  
民間とのジョイント・ベンチャーの必要性

事例

ラオス養殖開発プロジェクト・フェーズⅡ

国際水産開発学研究室  
(株)国際水産技術開発  
アイシーネット(株)



# 内容1:例

「土と文化」研究サブグループ  
(サブグループ代表候補・西澤直子)

不適地における農業技術の開発  
地域に適合した農業技術の開発  
遺伝子導入作物研究に関する合意形成

# 内容1:例

「森と文化」研究サブグループ  
(サブグループ代表候補・井上真)

伝統的森林管理システムに関する分析  
コモンズ理論による森林管理システムの検討  
社会的な森林管理システムと木材利用のあり方

# 「水と文化」研究サブグループ

(サブグループ代表候補・黒倉寿)

伝統的水管理システムの分析

開発と水利用・水管理システム

水産資源の利用と管理

地域に適合した養殖普及戦略の構築

放流等、資源増殖手法とその社会的な管理

# 「生き物と文化」研究サブグループ (サブグループ代表候補・林良博)

農業社会における家畜の役割と機能  
複合農業システムにおける養殖と畜産の役割  
地域社会における水産資源の共有と管理システム

「農業技術と文化」研究サブグループ  
(サブグループ代表候補・相良泰行)

生産不適地における農業と土地利用制度  
治水・利水と社会集団  
副業農業的土地利用システム  
WTO交渉と土地利用制度  
生産システムと土地利用制度の国際比較  
市場アクセスと流通技術



プロジェクト実践研修  
代表者 川島博之

海外研修

# 農学国際専攻の役割

当初の立ち上げ(蛮勇)

国際対応(曖昧)

異分野間の通訳(通俗)

# 会報



## 第1号

ラオスにおける養殖の諸形態  
ラオスのお金について思うこと

池ノ上宏(【株】国際水産技術開発)  
山田沙英子(農学国際専攻)

## 第2号

マラウイ発、生態系の中の養殖

大橋元裕(【株】国際水産技術開発)

## 第3号

素堀り池における残存魚の組成調査

佐野幸輔(農学国際専攻)

# 研究会

2005年10月25日

ラオスの人と魚ー淡水魚の資源管理をめぐる10年

秋道智彌（総合地球環境学研究所）

援助をどう評価するかーケイパビリティーの視点ー

池本幸生（東京大学東洋文化研究所）

2005年12月12日

「農」的な学融合を進めるための知的総合闘技場:生物資源管理論

井上真（農学国際専攻）

農村の自給を通してみえてくるもの

吉野馨子（農学国際専攻）

2006年2月28日

東南アジア山地世界の開発と環境

原洋之介（東京大学大学院情報学環）

魚は土で育つーメコン産魚類の自然史ー

多紀保彦（自然環境研究センター）

# 東南アジアの発展と保全

**原 洋之介先生** 東京大学大学院情報学環教授

「東南アジア山地世界の開発と環境」

**多紀 保彦先生** 東京水産大学名誉教授・  
(財)自然環境研究センター理事長

「魚は土で育つ-メコン産魚類の自然史-」

平成18年2月28日(火) 14:00~18:00  
東京大学農学部 弥生講堂

**-趣旨説明-**

東南アジアはそれぞれの環境風土に適応し、人々は農林水産業を中心とする地域社会の発展をつつと、環境を有形成してきた。その結果として「土着の人々」が、「文化」のなかで、人々は環境を共有し、それぞれの役割(ニッチ)を獲得した。その中には農漁と称される人々も含まれている。一方、文化を持つ社会では、人々は個人として競争に参入し、農漁は社会的なニッチを奪われ、その獲得することも出来ない。農漁と称される人々は、そのような競争の一端である。農漁は人々が争い、人々のことではなく、世界の社会情勢において自己実現の可能性を奪われた人々のことである。

国際的な開発の目的が富国からの救済にあるとすれば、開発援助の目的は、自分たちの文化を失った人々、文化の継承に立ち遅れた人々に対して、彼らが文化を継承出来るように手助けすることにある。

本邦水産研究(水産)文化センターは、大学側が中心になって農漁、水産、自然環境(水産)研究センターと、研究者と農漁に繋がる人々の間に、農漁の経験と学問的研究成果と交流を創出し、地域社会の文化継承に貢献することを目的としている。

連絡先 東京大学大学院 農学生命科学研究科農学国際専攻  
国際水産養殖研究室 山田幸子・石川智士  
TEL&FAX 03-5841-5018 Email: iap-aqua@hotmail.co.jp

## 来聴歓迎

